

| | | | |
|---|--------|--|----------|
| 授業科目名 | 看護学概論 | 講師名 | 伊藤 照美 |
| 実施年次・時期 | 1年次 前期 | 時間数(単位) | 1単位 30時間 |
| 学修目標 1. 看護学を構成している要素を学び、看護の概念と看護の目的を理解し、看護の基礎知識を身につける。 2. 看護師としての倫理的な考えや判断ができる能力・態度を養う。 | | | |
| 内容 1. 看護を志す初学者としての基本的考え方 2. 看護の本質とは(看護の歴史の変遷) 3. 看護の本質とは(看護の定義) 4. 看護の役割と機能(看護ケア) 5. 看護の役割と機能(看護実践に欠かせない要素) 6. 看護の対象の理解 7. 健康のとらえ方 | | 8. 国民の健康状態とライフサイクル 9. 職業としての看護 10. 看護概念の探求の発表 11. 看護概念の探求の発表 12. 看護における倫理 13. サービスとしての看護の提供の場 14. 看護サービスの管理、医療安全と医療の質の保証 15. 筆記試験 | |
| 教科書 看護学概論(医学書院) | | | |
| 授業の形態・方法 講義、演習 | | 評価方法 筆記試験 60分 80点、レポート 20点 | |
| その他の事項 看護師を取得後 5年以上の看護業務実務経験がある教員が看護学概論の授業を行う。 | | | |

| | | | |
|--|--------|---|----------|
| 授業科目名 | 看護技術論 | 講師名 | 大西 美穂 |
| 実施年次・時期 | 1年次 前期 | 時間数(単位) | 1単位 30時間 |
| 学修目標 1. 看護技術を看護実践のなかで活用することの意味と、看護実践の基盤となる考え方について学ぶ。 2. 看護技術の特徴を知る。 3. 看護技術を適切に実践するための条件を理解する。 4. 感染防止の基礎知識を理解し、施設内で発生する院内感染を防止するための技術を習得する。 5. 看護におけるコミュニケーションの意義を理解し、効果的なコミュニケーションのための知識・技術・態度を習得する。 | | | |
| 内容 1. 看護技術とは 2. 安全・安楽について 3. 感染予防① 4. 感染予防②(スタンダードプリコーション演示) 5. 標準予防策(スタンダードプリコーション演習) 個人防護用具・・・●△ 6. 感染経路別予防策(洗浄・消毒・滅菌) 7. 無菌操作、感染性廃棄物 | | 8. 9. 無菌操作・・・● 10. コミュニケーション 11. 人間関係とコミュニケーション 12. 効果的なコミュニケーションの実際 13. 看護におけるコミュニケーション 14. コミュニケーション障害への対応 15. 筆記試験 | |
| 教科書 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ(医学書院) 基礎・臨床看護技術(医学書院) | | | |
| 授業の形態・方法 講義、演習、実技 | | 評価方法 筆記試験 60分80点 実技レポート含む 20点 | |
| その他の事項 看護師を取得後 5年以上の看護業務実務経験がある教員が看護技術論の授業を行う。 | | | |

| | | | |
|--|---------|---------|----------|
| 授業科目名 | 生活援助技術Ⅰ | 講師名 | 坂中 麻紀 |
| 実施年次・時期 | 1年次 前期 | 時間数(単位) | 1単位 30時間 |
| 学修目標 1. 人間にとっての環境の意味を理解し、生活環境を整えるための知識と援助方法を習得する。 2. 活動・休息の意味を理解し、基本的活動と睡眠の基礎知識と必要な援助方法を習得する。 | | | |

| | |
|--|--|
| 内容 | 10. ベッドから車いすへの移乗・移送演習 11. ベッドから車いすへの移乗・移送演習 12. ベッドから車いすへの移乗・移送演習 13. ベッドからストレッチャーへの移乗 14. 睡眠のメカニズムの理解と、障害についてのアセスメントを学び、必要な援助方法を理解する。 15. 筆記試験 |
| 1. 環境の意義、病床環境 2. 病床環境の調整 3. ベッドメイキングの根拠 4. ベッドメイキング演習・・・☆ 5. ボディメカニクス・・・● 6. 体位変換演習・・・● 7. 臥床患者のシーツ交換 8. 歩行・移乗・移送 9. ベッドメイキングテスト | |
| 教科書 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ（医学書院）基礎・臨床看護技術（医学書院） | |
| 授業の形態・方法 講義、演習、実技 | 評価方法 筆記試験 60分 80点 実技レポート含む 20点 |
| その他の事項 看護師を取得後 5年以上の看護業務実務経験がある教員が生活援助技術Ⅰの授業を行う。 | |

| | | | |
|---|--|---|----------|
| 授業科目名 | 生活援助技術Ⅱ | 講師名 | 中務 優子 |
| 実施年次・時期 | 1年次 前期 | 時間数（単位） | 1単位 30時間 |
| 学修目標 1. 日常生活への看護を学び、その技術を習得することができる。 | | | |
| 内容 | 1. 清潔援助の基礎知識、衣生活の援助 2. 全身清拭真意交換の援助・演習 3. 全身清拭・・・☆ 4. 足浴とフットケア・・・● 5. 足浴演習 6. 陰部洗浄・・・● 7. 陰部洗浄演習 8. 洗髪・・・● | 9. 洗髪演習 10. 食生活への看護の技術を習得する。 食事介助・・・● 11. 排泄への看護の技術を学ぶ。 12. 床上排泄援助・・・● おむつによる排泄援助・・・● 13. 陰部洗浄技術チェック 14. 全身清拭テスト 15. 筆記試験 | |
| 教科書 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ（医学書院）基礎・臨床看護技術（医学書院） | | | |
| 授業の形態・方法 講義、演習、実技 | 評価方法 筆記試験 60分 80点、実技レポート含む 20点 | | |
| その他の事項 看護師を取得後 5年以上の看護業務実務経験がある教員が生活援助技術Ⅱの授業を行う。 | | | |

| | | | |
|---|---|--|----------|
| 授業科目名 | ヘルスアセスメント技術 | 講師名 | 坂中 麻紀 |
| 実施年次・時期 | 1年次 後期 | 時間数（単位） | 1単位 30時間 |
| 学修目標 1. 生体におけるバイタルサインの意味を理解し、その測定方法について習得する。 2. 身体各部の形態や、身体機能を正しく計測し評価することができる。 3. フィジカルアセスメントの概念と技術を学び、それによって得られる客観的データについて理解することができる。 | | | |
| 内容 | 1. フィジカルアセスメント、ヘルスアセスメント 2. 全体の概要、問診・視診・触診・打診・聴診 3. 系統的フィジカルアセスメント 4. 系統的フィジカルアセスメント 5. 呼吸音の聴診、腹部の聴診・触診 6. バイタルサインの観察とポイント 7. バイタルサイン測定要項 | 10. 身体計測 11. ケースを用いたフィジカルアセスメント 12. ケースを用いたフィジカルアセスメント 13. バイタルサイン測定技術テスト 14. ケースを用いたフィジカルアセスメント 15. 筆記試験 | |

| | |
|---|--------------------------------|
| 8. 9. バイタルサイン測定演習 (4) 身長・体重・腹囲・・・● | |
| 教科書 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ、臨床看護総論 (医学書院) 基礎・臨床看護技術 (医学書院) | |
| 授業の形態・方法 講義、演習、実技 | 評価方法 筆記試験 60分 80点、実技レポート含む 20点 |
| その他の事項 看護師を取得後 5年以上の看護業務実務経験がある教員がヘルスアセスメント技術の授業を行う。 | |

| | | | |
|--|--|----------|----------|
| 授業科目名 | 診療補助技術 | 講師名 | 坂中 麻紀 |
| 実施年次・時期 | 1年次 後期 | 時間数 (単位) | 1単位 30時間 |
| 学修目標 1. 検査・治療・処置における看護について学び、その技術を習得することができる。 | | | |
| 内容 | (1) 経口与薬 (2) 吸入・・・△ (3) 点眼・・・△ (4) 点鼻・・・△ (5) 経皮的与薬 (6) 直腸内与薬・・・△ (7) 注射 皮下注射・・・● 皮内注射・・・△ 筋肉内注射・・・● 静脈内注射 ワンシヨット・・・△ 点滴静脈内注射・・・● 輸液・シリンジポンプを用いた輸液・・・● 15. 筆記試験 | | |
| 教科書 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ、臨床看護総論 (医学書院) 基礎・臨床看護技術 (医学書院) | | | |
| 授業の形態・方法 講義、演習、実技 | 評価方法 筆記試験 60分 80点、実技レポート含む 20点 | | |
| その他の事項 看護師を取得後 5年以上の看護業務実務経験がある教員が診療補助技術の授業を行う。 | | | |

| | | | |
|--|--|----------|----------|
| 授業科目名 | 臨床看護総論 | 講師名 | 中務 優子 |
| 実施年次・時期 | 1年次 後期 | 時間数 (単位) | 1単位 30時間 |
| 学修目標 1. 健康障害の各期の特徴を理解し、援助方法を修得する。 2. 主要な症状を示す対象者への援助について理解する。 | | | |
| 内容 | 7～8. 呼吸・循環機能障害の援助 ①酸素吸入療法 酸素ボンベの取り扱い・・・● ②吸引 一時的吸引 (口腔・鼻腔・気管)・・・● 持続的吸引 (胸腔ドレナージ) ③排痰ケア④末梢循環促進ケア 9～11. 排泄機能障害 ①導尿 一時的導尿・・・● 持続的導尿・・・● ②排便を促す援助 ・浣腸・・・● 摘便 12～13. 経過別、症状別、対象理解の演習 15. 筆記試験 | | |
| 教科書 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ、臨床看護総論 (医学書院) 基礎・臨床看護技術 (医学書院) | | | |
| 授業の形態・方法 講義、演習、実技 | 評価方法 筆記試験 60分 80点、実技レポート含む 20点 | | |
| その他の事項 看護師を取得後 5年以上の看護業務実務経験がある教員が臨床看護総論の授業を行う。 | | | |

| | | | |
|--|-----------|--|----------|
| 授業科目名 | 看護過程展開技術Ⅰ | 講師名 | 大西 美穂 |
| 実施年次・時期 | 1年次 後期 | 時間数(単位) | 1単位 30時間 |
| 学修目標 1. 看護過程の展開の技術を理解することができる。 | | | |
| 内容 1. 記録と倫理 2. 看護記録 3. 報告 4. カンファレンス 5. カンファレンス(演習) | | 6. 学習支援 7. 看護における安全・安楽・個別性 8～11. 事例展開 12～14. 演習(事例を用いて) 15. 筆記試験 | |
| 教科書 看護学概論、基礎看護技術Ⅰ(医学書院) | | | |
| 授業の形態・方法 講義、演習 | | 評価方法 筆記試験 50分60点、レポート40点 | |
| その他の事項 看護師を取得後5年以上の看護業務実務経験がある教員が看護過程展開技術Ⅰの授業を行う。 | | | |

| | | | |
|--|-----------|--|----------|
| 授業科目名 | 看護過程展開技術Ⅱ | 講師名 | 大西 美穂 |
| 実施年次・時期 | 1年次 後期 | 時間数(単位) | 1単位 30時間 |
| 学修目標 1. 看護過程の展開の技術を活用し、紙上事例を用いて展開する。 | | | |
| 内容 1. 看護過程とは 2～3. NANDAとは、NANDAの概念枠組み 4. 情報収集 5～7. アセスメント 8. 関連図、看護問題の明確化 | | 9. 看護計画 10～11. グループワーク 12～13. 関連図・看護計画発表 14. 実施と評価、SOAPの書き方 15. 筆記試験 | |
| 教科書 基礎看護技術Ⅰ(医学書院)、NANDA看護診断ブック | | | |
| 授業の形態・方法 講義、演習 | | 評価方法 筆記試験 60分50点、課題レポート50点 | |
| その他の事項 看護師を取得後5年以上の看護業務実務経験がある教員が看護過程展開技術Ⅱの授業を行う。 | | | |